

# ワンセガー高瀬の 番組チェック



文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

地上デジタル放送完全移行まで残り1年を切った。7月24日に都内で行われた式典の評価はともかく、放送面ではひとつ、大きな変化が見られた。それは「アナログ放送画面の全レターボックス化」。つまりは、デジタル放送に特化した画づくりが本格化したわけだ。これを契機に、日本テレビとTBSはある取り組みを開始した。デジタル放送時代におけるデータ放送の在り方にも直結する、その新たな取り組みについて担当者に話を聞いた。

## 「完全レターボックス化」で12セグデータ放送に新たな動き

日テレ・TBSが  
開始した

# 「天気予報オーバーレイ表示」

### 実施はともに「朝の看板番組」

アナログ放送完全レターボックス化を契機に両放送局が開始したサービス、それは「強制表示を伴うデータ放送のオーバーレイ」。対象は日本テレビ『ズームイン!! SUPER』と『みのもんたの朝ズバッ!』という朝の両番組だ。

表示されるデータ放送は、いずれも居住地区の天気予報。『朝ズバッ!』担当の情報制作局情報一部チーフプロデューサー・武石浩明氏によれば「データ放送オーバーレイ表示の話を聞いて、試してみたいこととして通勤・通学者向けの地域天気予報に着目した」とのこと。日本テレビもほぼ同様に「デジタル放送時代の画面構成を考える機会にしたかった」（日本テレビデータ放送担当者）という。

オーバーレイとは、平たく言えば「画面サイズを縮小することなく表示できるデータ放送」のことで、一見すると通常の番組スーパー・CGと変わらない。大きな違いはもちろん、表示・非表示を含めた操作が可能な点で、通常データ放送へ誘導する窓口的な役割も果たす。

TBSの例をとって説明を続けると、表示されるのは居住地域または任意指定地域の天気予報。非連動データ放送画面で地域を選択していた場合はそちらを優先し、指定がない場合はテレビ端末の居住地情報を読み込んで自動表示される。

一見すると時刻横の天気予報表示（CG）と大差ないように見えるが、こちらは各地域・時間帯を放送局側が切り替えているのに対し、データ放送の一部であるオーバーレイは



表示例



視聴者側の操作がなければ動かない。また、予報表示下に色ボタンによるデータ放送誘導を設けることで「通常のスーパー・CG表示とは違う」ことを印象づける狙いもある。

ちなみに日テレにはこの「色ボタン誘導」がないため、「データ放送とわかって見ている人はかなりリテラシーの高い視聴者。ほとんどの場合、本編スーパーと違和感なく見られていると思う」（日テレ担当者）そうだ。TBSのケースにおいてもデザイン面含め賛否両論あったそうだが、「画面的にうるさくならないギリギリのラインを守って」（武石氏）色ボタンの付加が了承されたそうだ。

### 概ね好評も運用は大変

表示場所が画面左端となっているのは「通常のスーパー表示とかぶらない位置を選択したため」（TBS）。CM時には自動でオフとなるが、基本的に手動で強制表示するためスーパー表示との共存が難しい。よって最初から、かぶらない位置を選んだということらしい。日テレもほぼ同様の位置に表示されるが、手動でオン・オフを行っているため、運用面では大変とのことだった。

さて、気になるのは内外の評価。まず視聴者については両局とも概ね好評を得ているようで、中には「この機能はデータ放送より便利」（日テレ）という、別物として評価する声まで届けられているという。「通勤・通学時、もっとも気になる情報」（TBS武石氏）という目論見もおおよそ当たっているということだろう。

現場サイドの反応はどうか。現場を仕切る武石氏によれば「表示する情報を広げていくことも検討している」ということで、こちらも好評といっていいだろう。日テレも「オン・オフ含めた運用は大変だが、それはスーパー表示も同様。使っていく価値はある」との声が上がっているようで、こちらも広がり期待できそうだ。

「正直、いまは視聴者に浸透するのを待っている段階。天気の変わりやすい季節、また台風接近など随時情報が求められる状況になってくると、よりニーズが高まるはず」（TBS武石氏）。そう、本格的なデジタル放送時代はこれから。「ともにデジタル放送ならではのテレビ画面文化を創っていきたい」（日テレ担当者）という日テレ・TBS両局のチャレンジは、まだ始まったばかりだ。

